



思いをつなぐ いのちをつなぐ

tsunagu

つなぐ

3.11を忘れない
今、わたしたちにできること



◎2P～3P

- ・内山市議の指摘に対する反論
- ・福島出身、南波さんのお話
- ・県知事署名、3次集計結果

Vol.7

2015年1月18日発行
つなげよう脱原発の輪
上越の会 会報
発行責任者：植木史将

やめてください再稼働 11.24 脱原発アクション in 柏崎刈羽

新しい柏崎刈羽を考えよう 開催！！



賛同団体として署名活動を行いました。

地元 柏崎刈羽の12団体と132人の個人が主催の脱原発イベントが開催されました。

当日は、用意された1200部の資料が参加者に手渡されました。当会は、再稼働反対の泉田知事宛の署名と、石川県・福井県の知事宛署名そして東京電力宛の署名を集めました。

(泉田知事宛...106筆、福井知事宛...127筆、石川知事宛...123筆、東京電力宛...67筆)

大ホールでは、相馬高校による演劇DVD「今伝えたいこと(仮)」や、「大学生が描く 脱原発の未来マニュアル紹介」、京都大学 原子炉実験所 小出裕章助教の講演など盛りだくさんでした。

柏崎から飛ばした風船、2個目の発見！！ しかし、またも福島で・・・

8月24日に行われた「なくそテ原発柏崎大集会」で飛ばした風船が、ひと月半もたった10月13日に福島県湯川村で見つかったとの連絡が入りました。8月25日の福島県会津若松市からの最初の連絡に続く、2個目の連絡となります。

一つ目は柏崎から125キロ、二つ目は120キロ、いずれも福島原発事故で比較的低い福島県西部です。柏崎刈羽原発で事故が起きれば、福島全土が汚染されてしまうことになりかねません。柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉に向けての運動は、福島の方々とも連携を取って進めていく必要性がますます高まりました。



内山米六上越市議会議員の指摘に対する反論

2014年3月に、当会は上越市議会に対して、「再稼働等の事前了解を織り込んだ立地自治体並みの原子力安全協定の締結を求める請願」を行いました。その際に総務常任委員会にて行われた審査において、内山米六議員（大潟区）が当請願に反対の立場から発言をしました。後日、その内山議員の発言を当会内にて検証した結果、理論的に全くの誤りであることが判明しました。現在内山議員の理論的誤りを内山議員本人に問い質しておりますが、それに対する返答は期日である12月25日を過ぎた現在もいただけておりません。

ここが変だよ、内山議員の発言！

内山議員発言①

(原災法第7条2項から)

上越市が立地市町村と同じ権利を持つことは、法的には無理がある

反論！ 実態は…

原災法第7条2項は「原子力事業者防災業務計画」作成・修正に関するものであり、自治体と原子力事業者間で締結される「原子力安全協定」を規定するものではありません

内山議員発言②

上越市が、原子力の専門的あるいは技術的な判断ができる人材を確保することは財政的に不可能

反論！ 実態は…

再稼働の事前了解を織り込んだ安全協定を結んでいる立地自治体柏崎市、刈羽村においても専門的、技術的な検討は「県技術委員会」にゆだねており、上越市が「立地自治体並みの協定」に改訂しても、新たな財政的負担等は大きく発生することはありません

★ご協力ありがとうございます★

“10万人” 県知事署名 3次集計結果

泉田新潟県知事宛「柏崎刈羽原発の再稼働に反対し、廃炉をもとめる署名」

2014年9月30日の中間3次締切に伴う賛同18団体の集計結果が出ました。

◎18団体合計 ……53,632筆
(うち新潟県内：35,332筆 新潟県外：18,300筆)

◎つなげよう脱原発の輪 上越の会 単体 ……15,335筆
(うち新潟県内：10,531筆 新潟県外：4,804筆) (集計日：2014年11月23日)

10万筆に向けて、まだまだ署名集めは続きます。(中間4次締切：4月12日(=県議選投票日))

8.24 柏崎大集会に参加した団体や、柏崎刈羽原発の再稼働中止の要望書を泉田知事と東電に提出した「福島県只見町区長連絡協議会」(福島県初)など7団体が新たに賛同団体に加わり、県知事署名(泉田知事宛)に取り組む団体は新潟県、長野県、福島県の3県より合計21団体になりました。

柏崎刈羽原発の再稼働の鍵を握る泉田知事に「再稼働反対」の市民の声を届けると共に、署名を通じて同じ市民と対話し、署名を通じて脱原発の世論を高め、脱原発の輪をつなげていきましょう。

故郷に帰れず

福島県浪江町出身 南波 ミキ子（上越市鴨島在住）

私は主人との縁で高田に住んで45年ほどになりますが、出身は福島県浪江町で、高校まで育ちました。海あり山あり自然豊かで温暖な四季。どこにでもある平凡な田舎町ですが、故郷を忘れたことはありません。

私の若い頃、周辺の町に原発誘致の話が持ち上がりました。地主にトランクいっぱいの現金を見せたり、温泉招待券を渡したりして土地買収を進めてきました。

隣の双葉町と大熊町では誘致が決まりましたが、浪江町では反対が多く跳ね返したのです。

私は原発のない浪江町が好きでした。

ところが、あの日の震災で町は一変しました。

双葉町には翌日たくさんのバスが来て住民は避難しましたが、浪江町役場には国・県・東電から何も情報が入らず、町長がテレビで原発事故を知り、町内放送で個々に避難するよう指示があったといいます。

実家の敷地に2軒あるうち築70年の家のほうがつぶれてしまい、兄夫婦と幼い兄の孫2人がつぶれた家屋の中に閉じ込められましたが、奇跡的に怪我もなく助け出されました。そして家族6人で高台の施設に逃げたそうです。後でわかったのですが、放射能は風で高いところに飛ぶとか。まさにそこがホットスポットでした。

5日目にようやく兄達の安否がわかりました。

着の身着のまま新潟市の弟のところに避難してきまして、兄弟全員で無事を喜び合いました。

それから長い避難生活が始まります。一年半の間に11回の引越しを繰り返し、避難生活にかかった経費を東電に請求しましたが、認められたのは仏壇代と現金8千円だけだったそうです。

避難するすべての人がそうかもしれませんが、本当はお金ではなく、長年住み慣れた故郷で平凡に暮らすのが一番の願いだと思います。しかし福島県の多くの地域で、それは叶わぬことです。

浪江町の中心部は放射能が比較的少なく、3年後に5千人規模で町を復興する方向に進めているそうです。町役場には30人くらいの職員が通勤し、コンビニやスタンドも営業を始めました。ただ許可がないと町の中には入れず、兄達は月一度、町のバスで実家の壊れなかったほうの家の掃除に行っています。ライフラインの整備などはまだで、若い人はほとんど帰らないということなので、町としての機能が取り戻せるかわかりません。

原発は人々に何をもたらしたのでしょうか？

命より大切なものはないのに、経済優先で再稼動に向かっている現実には大きな疑問を感じます。

ひとつ絶句したことがあります。

震災後避難生活をしている同級生3人と新潟で会ったときのことで。いろいろな話の中で私が「こんな危険な原発はいらないよね」と言ったら、友達が「でも東電のおかげで若い人の働く場所があり地元が潤うから反対できない」と言ったことです。こんな目に遭っても私とは違う思いがあるのかと複雑な気持ちだし、心が重くなりました。

ただこの震災で兄弟の絆が強くなったと感じています。兄の息子夫婦がたいへん苦労して、壊れた家にもぐって祖父母、父母の位牌を探してくれたこと。そして新潟の弟の家でお坊さんに供養してもらったこと。とてもうれしかったです。

兄達は郡山に落ち着き、夫婦二人の静かな生活が戻りました。

そしてこの上越の地で福島県人のことを真剣に心配してくださり、脱原発の運動をする皆様に心から感謝申し上げます。私も微力ですがこちらの運動を福島の方に知ってもらい、協力していきたいと思います。

内部被曝から守るために②

ゆるい日本の基準値

福島第一原発の爆発以降、放射能が東北、関東、東海を中心に降り、大地も河川も湖もことごとく汚れてしまいました。そこに育つ生命には、全てに放射能が入ってきています。毎日食べる米や野菜や果物に吸収され、私たちの身体へと進入し、蓄積します。海産物は、より深刻の一途です。汚染水のくい止めが未だできず、想像を絶する単位の放射能が太平洋に流れ続けているようです。日本政府の食品流通基準 100 ベクレルは、ドイツの大人 8 ベクレル、子供 4 ベクレルまでの規制に比べ余りにゆるく、今後の悪影響が懸念されます。

汚染しているだろう食品をできる限り摂らないことや先号でお伝えした食事法を参考にして身体から放射能を排毒することに注意を払っていききたいものです。

行政はこの問題をなかなか取り上げてくれませんが、即いのちに直結する重要問題として、つな脱の会でも強力に交渉していかねばと考えております。(K.O)



私の思い



拝金と俺だけ病からの脱却を

仙田 幸造 (上越市柿崎区)

今年 82 歳。老化現象と共生するのんびり爺である。身近な里山や耕地を利用して自給自足の生活に近づくよう、自然に親しむことを心がける日々だ。

今の日本は「俺だけ今すぐ儲けたい」という病気が蔓延しているように感じる。原発再稼働問題でも、そのことがわかる。大量で安い電力で大儲けしたい電力会社と工場経営者等の資本家。原発の危険性をごまかす宣伝をして国民をだます政府。与党に献金して政府のごまかしに協力し、儲けてしまえば後始末などせず、金はしっかり確保してしまう資本家。

原発立地の地域では、強い反対運動が起きるが、遠く離れた地域では「俺たちに直接関係ない」と、原発の稼働に寛容になってしまう。

私たちは、政府・与党・資本家の動きに目を光らせ、このようなごまかしと懐柔にもっと厳しく批判し反対することが必要である。

《 募集中 》

◆支援物資・カンパ・ボランティア

任意団体「高田教区震災支援有志会」は、福島で生活物資を必要としている人たちのための「青空市場」(福島県二本松市)に毎月物資を届けたり、現地で炊き出しなどを行ったりしています。詳しくはお問い合わせください。連絡先 豊島さん (090 - 7270 - 4078)

《 活動報告 》

◆10.5<しゅっちょうべんきょうかいIN大潟>

【日時】10月5日(日) 14:00~16:00

【会場】大潟コミュニティプラザ 大会議室

【内容】①DVD鑑賞「テレビと新聞が伝えない太郎ホントの話 ~放射能どこがこわいの?山本太郎が広瀬隆に聞く!~《前篇》」 ②交流会

◎配ったチラシを見て初参加された方2名(初参加は他1名)。大潟区からの参加者合計4名。事前のデリ署名&ビラ配りが成功!

◆11.6<月例勉強会>

【日時】11月6日(木) 19:00~21:00

【会場】上越市市民プラザ 2F 第6会議室

【内容】①ボクこれからどうなるの?資料5「八方塞がりの核燃料サイクル」 ②南波さん(本紙3p)のお話(福島県浪江町出身)

◆11.21<定例事務局ミーティング>

【日時】11月21日(金) 19:00~21:00

【会場】上越市市民プラザ 市民活動室

【内容】県知事署名、会報誌、勉強会、市議会への働きかけ、集客プロジェクトなどについて。

◆12.7<しゅっちょうべんきょうかいIN直江津>

【日時】12月7日(日) 14:00~16:00

【会場】直江津学びの交流館

【内容】①DVD鑑賞「テレビと新聞が伝えない太郎ホントの話 ~放射能どこがこわいの?山本太郎が広瀬隆に聞く!~《後編》」

◎「放射能」という見えないものの正体を垣間見ることができた勉強会でした。「無知の知」・・・まずは知ることから始めましょう。

◎つなげよう脱原発の輪 上越の会◎

代表:植木史将 (090-4962-9633)

公式ホームページ 続々更新中!

tunadatu.jimdo.com

つな脱

検索

カンパ募集中です

当会は会の趣旨にご賛同いただける皆様からのカンパで運営されています。ご協力よろしくお願ひします。

ゆうちょ銀行から…11260-13169471 (名義当会)

ゆうちょ銀行以外から…ゆうちょ銀行・仔コ折(一二八)・普通預金・1316947 (名義当会)

◆◇編集後記◇◇

▼しゅっちょう勉強会 in 直江津 (12/7 (日) 直江津学びの交流館) に4歳の息子と参加しました。初参加の子ども連れの母親が「太郎の本当の話・後編(内部被曝)」のDVD上映を観てくれました。命の大切さを伝え、事実と意思の懇談の機会。疲弊し潰れないよう、いのちでつながり歩み続けて行きましょう。(N・I)